



週間情報



No.0422

発行日 令和4年6月21日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03(3234)1321

消防本部の動き

訓練

◆ 解体予定の民間施設を活用した災害対応訓練を実施

桑名市消防本部（三重）

桑名市消防本部では、令和4年5月30日（月）から6月1日（水）までの3日間、解体予定の民間施設を活用した災害対応訓練を実施しました。

これは、日常で使用する訓練施設では実施困難な破壊活動や、より実災害に近い環境で各種訓練を実施することで、災害対応能力の向上を図る目的で実施したものです。

訓練では、ドアやシャッターなどの破壊や、発煙筒による濃煙環境での陽圧換気、高所からの救出、はしご車による窓ガラスの破壊及び進入を実施しました。効果的な破壊要領や換気要領を確認することができる貴重な経験となりました。

今後も質の高い訓練を継続し、災害対応能力の向上に努めてまいります。



【ドア破壊訓練の様子】



【はしご車による進入訓練の様子】

◆ 即応対処部隊機能強化訓練を実施

東京消防庁（東京）

東京消防庁即応対処部隊では、令和4年6月1日（水）から3日（金）までの3日間、第七消防方面訓練場において、即応対処部隊機能強化訓練を実施しました。

この訓練は、大規模な水災害で複数の要救助者が発生していることを想定し、ブラインド形式で実施したものです。

訓練では、先着した即応対処部隊が早期に災害実態を把握し、要救助者の人数や状況、危険要因などを集約した情報を後着した警防部指揮隊に伝達する活動を実施しました。

また、現場映像共有機能（FLV）を活用し、出場途上の警防部指揮隊に無線や音声のみだけでなく、映像でのタイムリーな情報を提供したほか、情報通信課の情報通信工作車から訓練状況の映像を本部庁舎にも送信しました。

今後も、この訓練の課題を生かして、災害対応能力のさらなる強化を図ってまいります。



【指揮本部の様子】



【現場映像共有機能（FLV）】

◆ 3機関合同の水上訓練を実施

郡上市消防本部（岐阜）

郡上市消防本部では、令和4年6月1日（水）、郡上市美並町の長良川において、郡上警察署、郡上漁業協同組合と3機関合同の水上訓練を実施しました。

この訓練は、令和4年6月4日（土）に今シーズンの鮎の友釣りが解禁され、水難事故の発生が予測されることから、関係機関の連携強化を目的として実施したものです。

訓練では、昨年度から運用を開始したドローンの有用性を検証するとともに、消防・警察のボート操船を実施しました。

今後も、訓練を継続し、水難事故への対応力強化に努めてまいります。



【消防・警察のボート操船訓練の様子】



【漁業協同組合のスローバック投てき訓練の様子】

◆ 筑波山頂で消火栓等の取扱訓練を実施

つくば市消防本部（茨城）

つくば市北消防署筑波分署では、令和4年6月2日（木）、筑波山頂で消火栓等の取扱訓練を実施しました。

この訓練は、山頂で火災が発生した際に初期消火を迅速に行えるよう、山頂組合、筑波観光鉄道、筑波山神社及びつくば警察署の職員と合同で実施したものです。

訓練を通じて、初期消火の重要性と消火栓等の取り扱いについて確認することができました。今後も、災害時の初期対応を迅速に行えるよう、関係機関との連携の向上を図ってまいります。



【訓練後の講評の様子】



【初期消火訓練の様子】

◆ 徳山海上保安部と合同訓練を実施

防府市消防本部（山口）

防府市消防本部では、令和4年6月2日（木）、徳山海上保安部と合同訓練を実施しました。

この訓練は、離島で火災が発生した際に、同海上保安部に応援要請し、消防隊員及び火災防衛資機材を積載・搬送する要領を確認する目的で実施したものです。

当日は、巡視船「なちかぜ」に必要資機材を積載し、積載スペース及び積載能力を確認しました。

また、「なちかぜ」は放水性能も有していることから、陸上に設置する可搬ポンプへの中継送水活動を想定して、同船の吐水口の位置、接続方法などを確認しました。

この訓練で、相互の情報共有及び連携を図ることができ、災害時における円滑な初動体制を確立することができました。



【必要資機材積載訓練の様子】



【巡視船「なちかぜ」】

◆ 危険物施設消防訓練を実施

鯖江・丹生消防組合消防本部（福井）

鯖江・丹生消防組合消防本部では、危険物安全週間の一環として、令和4年6月3日（金）、サンワ中部株式会社鯖江事業所と合同で危険物施設消防訓練を実施しました。

本訓練では、危険物の抜き取り作業中に火災が発生し、初期消火を行った従業員が負傷したという想定で、同事業所の従業員のほか、当消防本部の安全管理隊、指揮隊、消防隊、救急隊が参加し、危険物施設での火災・救急対応や、ドローンを活用した情報伝達、従業員との連携について再確認しました。

コロナ禍により、約3年ぶりに本訓練を実施することができ、危険物火災に対する備えを共有することができました。



【従業員による初期対応訓練の様子】



【火災対応訓練の様子】

◆ 危険物施設火災想定訓練を実施

天草広域連合消防本部（熊本）

天草広域連合中央消防署苓北分署では、危険物安全週間の一環として、令和4年6月7日（火）、九州電力苓北発電所内の特定屋外タンク貯蔵所において、危険物施設火災想定訓練を実施しました。

この訓練は、同分署、苓北発電所自衛消防組織、苓北町消防団の関係者約70人と消防車両5台が参加し、緊急時の連携強化を目的として実施したものです。

訓練では、同自衛消防組織が初期消火と避難誘導、分署隊員が化学車の放水銃から泡消火剤の放射、団員が屋外消火栓から化学車への中継送水などを行いました。

訓練を通じて、火災が起こった際の迅速的確な行動及び情報の共有、各々の役割、連携の強化等の大切さを再認識する貴重な機会となりました。

今後も、実践的な合同訓練を実施し、住民の安心・安全のために努めてまいります。



【泡消火剤の放射訓練の様子】



【中継送水訓練の様子】

研 修

◆ 塵芥車構造研修会を実施

尾三消防本部（愛知）

尾三消防本部では、令和4年6月1日（水）、管内事業所の協力により塵芥車構造研修会を実施しました。

この研修会は、塵芥車による挟まれ事故や火災が発生した際に迅速な救助・消火活動を行うため、専門的な知識を習得するとともに、同事業所との連携体制を確立する目的で実施したものです。

研修会では、事業所の職員による構造説明のあと、模擬人形を使用して回転板やプレスプレートに挟まれた状況を再現し、救出方法の検討を行いました。

今後も、効果的な現場活動が行えるよう、事業所との連携強化に努めてまいります。



【講師による構造説明の様子】



【救出方法検討の様子】

◆ 司令課教養研修を開催

神戸市消防局（兵庫）

神戸市消防局では、令和4年6月3日（金）、神戸女学院大学の木村昌紀教授を講師に迎え、司令課教養研修を開催しました。

研修では、緊迫した状況下での通報者の心理や119番通報時の通報者と管制係員のコミュニケーションの取り方、口頭指導時に通報者が円滑に対応するためのアドバイス等を心理学の観点から講義していただきました。日頃の受信業務での話し方や対応方法を振り返る貴重な機会となり、大変充実したものとなりました。

今後も訓練や研修を通じて、迅速で正確な指令を出すための技能の向上や心構えの習得を図り、より良い管制業務に努めてまいります。



【研修の様子】

◆ 水防工法習得講習会を実施

館林地区消防組合消防本部（群馬）

館林地区消防組合消防本部では、令和4年6月4日（土）、館林地区消防組合消防団と合同で水防工法習得講習会を実施しました。

当組合の管内は、南に一級河川の利根川、北に利根川水系で流域面積が最大の支川である渡良瀬川に挟まれた地域です。

この講習会は、水害の発生を未然に防ぐために、越水防止工法、漏水・決壊・崩壊防止工法に関する知識と技術の習得を図る目的で実施しました。

今後も、水害を含む全ての災害事案に対応ができるよう、訓練を重ねてまいります。



【講習会の様子】



【越水防止工法の様子】

◆ 地下貯蔵タンクの据付け検査に係る実習を実施

松本広域消防局（長野）

松本広域消防局では、令和4年6月6日（月）、新設の地下貯蔵タンクの据付け検査に係る実習を実施しました。

この実習は、危険物規制事務を担当していない職員に対し、地下貯蔵タンクの構造を視覚的に学ぶために予防実務研修の一環として実施したものです。

実習では、地下貯蔵タンクの構造の検査、据付け部分の検査に続き、大型クレーンで地盤面下に地下貯蔵タンクを降ろして固定するまでの工程を見学し、参考図書だけでは理解が難しかった危険物施設の構造を学ぶことができました。

今後も、危険物施設での事故や火災の防止につながるよう、予防実務研修を通じて職員の育成に努めてまいります。



【地下貯蔵タンクを降ろしている様子】

◆ 署内研修（燃焼実験）を実施

草加八潮消防局（埼玉）

草加八潮消防局では、危険物安全週間の一環として、令和4年6月5日（日）、7日（火）の2日間、化学中隊を配置している草加消防署青柳分署において、署内研修（燃焼実験）を実施しました。

この研修は、職員の危険物の保安に対する意識の高揚を図る目的で実施しました。

研修を受講した職員からは、「今回の実験では、危険物の特性、危険性、消火方法を体感しながら学ぶことができ、とても効果のあるものだと感じました。」との意見がありました。

今後も、多角的な視点から研修を計画し、危険物災害に関する知識、消火技術の向上に努めてまいります。



【ガソリン蒸気引火実験の様子】



【石油タンクの燃焼模擬実験の様子】

その他

◆ 消防協力者に感謝状を贈呈

御前崎市消防本部（静岡）

御前崎市消防本部では、令和4年6月4日（土）、消防長から消防協力者3名に対し、感謝状を贈呈しました。

本事案は、令和4年3月16日（水）、消防協力者3名が、用水路で身動きができない高齢男性を協力して迅速に救出し、その後も適切な対応をとり救急隊へ引き継いだものです。

3名の勇気ある的確な行動により、尊い命が救われました。



【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆ 白根大凧合戦会場及び周辺に放火監視機器を設置

新潟市消防局（新潟）

新潟市南消防署では、令和4年6月2日（木）から6日（月）までの5日間にわたり開催される、白根大凧合戦に当たり、令和4年5月30日（月）、同会場及び周辺に放火監視機器を設置しました。

これは、10年前の平成24年6月4日（月）、たばこの投げ捨てが原因と推定される火災で、地域の人たちが丹精を込めて作成した大凧が焼損する被害が発生したことから、放火等の火災を未然に防止することを目的として設置したものです。

今後も、安心・安全なまちづくりに努めてまいります。



【放火監視機器設置の様子】



【大凧の様子】

◆ 事業所（給油取扱所）と連携した火災予防広報を実施

徳島市消防局（徳島）

徳島市消防局では、危険物安全週間の一環として、令和4年6月7日（火）、市内の給油取扱所の丸善商事株式会社と連携した火災予防広報を実施しました。

これは、給油に訪れた利用客に、危険物の正しい取扱方法等の安全知識の普及・啓発を目的に実施したものです。

今後も危険物関係事業所と連携し、各事業所における自主保安体制の強化を図るとともに、市民にも、危険物による災害防止を呼び掛けてまいります。



【火災予防広報の様子】



【配布した火災予防広報物品】

◆ 防火基準適合表示マーク交付式を実施

柳川市消防本部（福岡）

柳川市消防本部では、令和4年6月10日（金）、防火基準適合表示マーク交付式を実施しました。

これは、「ホテルルートイン柳川駅前」に対し、銀の表示マーク交付から3年間、継続して表示基準に適合したことから、金の表示マークを交付したものです。

当市では4件目となる金の表示マーク防火対象物となります。

同ホテルは、過去に放火により火災が発生した際、防火管理者の冷静な通報、適切な初期消火と避難誘導を行い、火災を最小限に食い止め、約180人の宿泊者全員を無事に避難させました。これも、普段の防火管理体制が徹底されている成果といえます。

今後も、宿泊等の利用者に安全・安心な施設として防火管理体制の徹底を継続していくことを期待します。



【交付式後の記念撮影】

国等の動き

情報提供

◆ 令和4年度予防技術検定受検準備講習会の実施について

一般財団法人消防防災科学センター

1 趣旨

予防技術資格者の大量退職に伴う絶対数の不足への対応や予防技術資格者の資質の向上が喫緊の課題となっていることを踏まえ、一般財団法人消防防災科学センター（以下「センター」という。）では、平成28年度から予防技術資格者に関する資格取得の支援及び資質の向上に係わる事業を行っています。

事業内容としては、予防技術検定の受検促進と合格者の増加を図るため、予防技術検定の共通科目と3専攻科目（防火査察科目編、消防用設備等科目編、危険物科目編）の学習用テキスト及び演習問題の作成を行い、消防職員の受検支援を行っています。

また、平成30年度に全国の消防本部を対象に実施した「予防技術資格者の資格取得促進対策調査」において、多くの消防本部から学習テキスト等の提供だけではなく、専門講師派遣による受検準備講習会の開催を要望する回答が多くあったことを踏まえ、令和元年度からは、全国消防長会の協力を得て、全国9ブロックにおいて「予防技術検定受検準備講習会」を開催しています。

講習会終了後のアンケート結果によれば今後も講習会開催の継続を要望する回答が多くありましたので、本年度も引き続き全国9ブロックにおいて「令和4年度予防技術検定受検準備講習会」を開催し受検の支援を行うものです。

2 講習会及びテキスト購入の概要

	内 容
主 催	一般財団法人消防防災科学センター
開催場所及び日時	全国9ブロック23会場で開催（詳細はホームページ参照）
対 象 者	原則として、消防職員で予防技術検定の受検を希望する者
参加費用等	<ul style="list-style-type: none"> ・参加費用は無料です。 ・資料に「令和4年度版予防技術検定学習テキスト」を使用（実費購入）します。
講習会の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 講習科目及び定員 <ul style="list-style-type: none"> ・講習科目は、共通科目編と専攻科目編をセットで実施します。 ・会場ごとの講習科目及び定員等はホームページでご確認ください。 ・各会場は定員になり次第締め切りとします。 2 講義は、センター派遣講師が「予防技術検定学習テキスト（共通科目編、防火査察科目編、消防用設備等科目編及び危険物科目編）」に基づき実施します。 <ul style="list-style-type: none"> ・共通科目編 2時間程度 ・専攻科目編 3時間30分程度 3 講義は、学習テキスト及び演習問題を活用し講師による解説を行います。
受講申し込み及びテキスト購入について	<ol style="list-style-type: none"> 1 受講申し込み及びテキスト購入に関する詳細はセンターホームページをご参照ください。(https://www.isad.or.jp/) 2 申し込みの締め切りは7月15日（金）です。 ※ 今年度はテキストの購入に関する事前調査は実施しないことから、今回の購入申し込みが本申し込みとなりますので、誤りのないようお願いします。

【担当】

消防支援室

大賀、高橋、吉田、酒井、河原

TEL : 0422-24-7811

Email : yobou-shikaku@isad.or.jp

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（No.0416）1ページ、機関誌「ほのお」2022年4号（4/25発刊）29ページを参照願います。

TEL：03-3234-1321 機関誌「ほのお」担当：企画課 高田

原稿データは、kikakoho@fcaj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

【特徴】

- ・写真中心のビジュアルな広報
- ・紙媒体により記録性に優れる広報

【留意事項】

- ・文章は、Wordで100文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。
- ・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方にのみ掲載することがあります。

TEL：03-3234-1321 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課 高田

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

- ・原則毎週刊行される、速報性のある広報
- ・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方にのみ掲載することがあります。
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者よりメールを返信させていただきます。

TEL：03-3234-1321 「週間情報」担当：企画課 石原

原稿データは、weekly@fcaj.gr.jpに送信願います。